

ASTD 2005 International Conference & Exposition
～ 米国 IT 人材開発・教育視察ツアー'05～

報告書

2005年6月2日(木)～6月8日(水)

米国フロリダ州オーランド

JPSA

社団法人 日本パーソナルコンピュータソフトウェア協会
人材育成研究会

目 次

1. ASTD について
2. ASTD 2005 International Conference & Exposition について
3. 日程
4. 参加メンバー
5. ASTD'05Expo の概要
6. E-Learning Instructional Design Certificate Programs への参加
7. ASTD 事務局との打ち合わせ
8. ASTD'05 視察ツアー(全体)を振り返って(参加メンバーからのコメント)



1.ASTD について

ASTD (American Society for Training Development / 米国教育訓練協会) は、1944年に非営利団体として設立され、最も権威のある企業人の教育に関する専門化の集まりです。現在は100カ国以上、70,000人以上の個人/法人会員数を誇り、機関紙や例会、国際会議などを通じて、会員間での情報共有や研究成果の共有をはかっています。 **ASTD ウェブサイト** <http://www.astd.org/ASTD>

2.ASTD 2005 International Conference & Exposition について

ASTD が主催する『ASTD International Conference & Exposition』は、約10,000人のスペシャリストが72カ国以上から参加し、特に企業における人材教育や人材開発をいかに効果的に行うか、という点に注目した国際会議および展示会です。コンファレンスでは、企業の成功事例を紹介するセッションも準備され、世界各国からの人材開発の専門家、企業内教育担当者、技術者が集まる国際年次大会として注目されています。

ASTD2005 ウェブサイト <http://www.astd.org/astd/Conferences/ICE/ICE05/>

(開催地) アメリカ合衆国 フロリダ州 オーランド

(会場) オレンジカントリーコンベンションセンター

(スケジュール)

- ・Certificate Programs: 6月2日(木) - 4日(土)
- ・Preconference Workshops: 6月3日(金) - 4日(土)
- ・Conference: 6月5日(日) - 9日(木)
- ・EXPO: 6月6日(月) - 8日(水)
 - 6日(月)9:45a.m. - 2:30p.m.
 - 7日(火)11:45a.m - 4:00p.m.
 - 8日(水)9:30p.m. - 2:00p.m.

3.日程

日次	月・日 (曜)	発着地 / 滞在地	時間	交通機関	摘要
1.	2005年 6月2日 (木)	成田空港 第1ターミナル集合 成田 発 デトロイト 着 デトロイト 発 オ-ランド 着 時差: 日本 - 13時間	13:00 15:05 13:45 15:27 17:53	 NW 航空 26 便 同 422 便 バスにてホテルへ	結団式、移動 NW 航空ジャンボ機にてデトロイトへ。 (入国審査を受けます。) 国内線に乗り換えて、フロリダ州オーランドへ。 (クオリティイン・プラザ泊)
2.	3日 (金)	オーランド滞在			朝食後、オレンジカントリーコンベンションセンター (ASTD 会場) W208 へ。 9:00a.m. - 17:00p.m. ・Instructional Design Certificate Program 18:00p.m. - 19:30p.m. ・ホテルにて、復習会 (クオリティイン・プラザ泊)
3.	4日 (土)	オーランド滞在			同上 program Speaker と昼食 (クオリティイン・プラザ泊)
4.	5日 (日)	オーランド滞在			朝食後、フリー。市内観光など。 〔オプション〕ASTD コンファレンスへ参加 (同センター) (クオリティイン・プラザ泊)
5.	6日 (月)	オーランド滞在			朝食後、ASTD 会場へ。 ASTD2005Expo 視察 13:30~ : ASTD 理事と面会 17:00~ 18:00: ASTD ID 担当者との面会 (クオリティイン・プラザ泊)

・
・
・

日程(続き)

・
・
・

日次	月・日 (曜)	発着地 / 滞在地	時間	交通機関	摘要
6.	7日 (火)	ホテル出発	8:45	バスにて空港へ	朝食後、チェックアウト、移動。 デトロイトへ。
		オーランド 発	11:33	NW 航空	
		デトロイト 着	14:15	423 便	
		デトロイト 発	15:25	NW 航空	帰国便に乗り換えて一路、成田へ。 〔日付変更線通過〕
				11 便	
7.	8日 (水)	成田 着	17:30		成田空港にて閉会式。 解散。



4.参加メンバー

順不同・敬称略

	氏名	会社名	部署・役職	URL
1	団長 宇野 和彦	(株)スキルメイト	代表取締役社長	http://www.skillmate.co.jp/
2	須古 勝志	(株)レイル	代表取締役社長	http://www.reile.co.jp/
3	堀 外志数	(株)レイル	コンテンツソリューション部 部長	
4	遠藤 宏之	(株)レイル	取締役 システム ソリューション部 シニアマネージャー	
5	土肥 純門	(株)レイル	教育ソリューション事業部 主任	
6	朝倉 有子	楽伝工房	事業主	http://rakuden.kir.jp/
7	長尾 小百合	(株)ワーク	代表取締役	http://www.work21.co.jp/
8	宮下 奈緒美	JPSA	事務局	http://www.jpsa.or.jp/

合計8名



5.ASTD'05 Expo の概要

ASTD Expo は、今年で 61 周年を迎える。2005 年は、出展者数は約 330 社。企業向けの人材育成・教育に関わる事業社が展示ブースを構えていた。主な出展企業は、アセスメントツール、コーチング、CBT、E-Learning、ラーニングマネジメントシステム、マネジメント開発などの企業が多くみられ、日本企業からの出展も何社かみられた。

展示会風景



6.E-Learning Instructional Design Certificate Programs への参加

Expo 開始前 6 月 2 日 (木) ~ 4 日 (土) ASTD2005 会場のコンファレンスルームにて、11 つの Certificate Programs が行われていた。全セッション 2~3 日間 (9:00 - 17:00) のコースで、開催プログラムは次の通り。

Designing Learning

E-Learning Instructional Design

The ASTD / HBSP Training Directors Business Boot Camp : Building the Case for Training

Human Performance Improvement In the WorkPlace

HPI Evaluating Performance Improvement Interventions

HPI Analyzing Human Performance

Measuring & Evaluating Learning

Rapid Prototyping for E-Learning Design

ROI Skill-Building

Training Certificate Program

Coach-Based Consulting



私達は、E-Learning Instructional Design Certificate Program (2 日間) に参加した。

当コースは e-Learning に特化した教育設計認証プログラムである。

日時 : 6 月 3 日 (金) 4 日 (土) 9:00 ~ 17:00

講師 : Michael W. Allen, Ph.D (Allen Interactions 社の最高経営責任者・創設者)

Ethan Edward (同社、チーフナレッジオフィサー)

受講者 : 約 72 名 (各国から集まったコンテンツ開発者、事業者、デザイナー (設計者) 等)

講師の Allen 氏はコンテンツ作成プログラム Autherware の開発者で、旧 Autherware 社 (現 : マイクロメディア社) の元会長であり、現在は、Allen Interactions Inc. の最高経営責任者・創設者である。

Edward 氏は、インタラクティブトレーニングアプリケーションのデザインを 20 年間以上担当している。

~ コースアウトライン ~

{ 1 日目 }

1. 良いデザインの本質
2. 成功の実現性
3. 学習者のモチベーション

{ 2 日目 }

1. 連続的な近似によって目標へ到達
2. ナビゲーション
3. 教育の双方向性
4. 明瞭なトーク



【講義概要】

第一日目：

従来の E-Learning コンテンツの多くは、面白くない、学習目標が不明、刺激が少ない、学習時間が長すぎる、ウォータフォール方式が多く極めて退屈であり、教育効果が期待できないとの前提で構成されており、従来型の E-Learning コンテンツと Allen 氏が提案するコンテンツとの比較を行ったりした。

講義内容の基調としては：

A) 成功するコンテンツデザインの 3 つの大きなポイント

1. Enhance the learner's motivation to learn

学習者の学習する動機付けを促進する

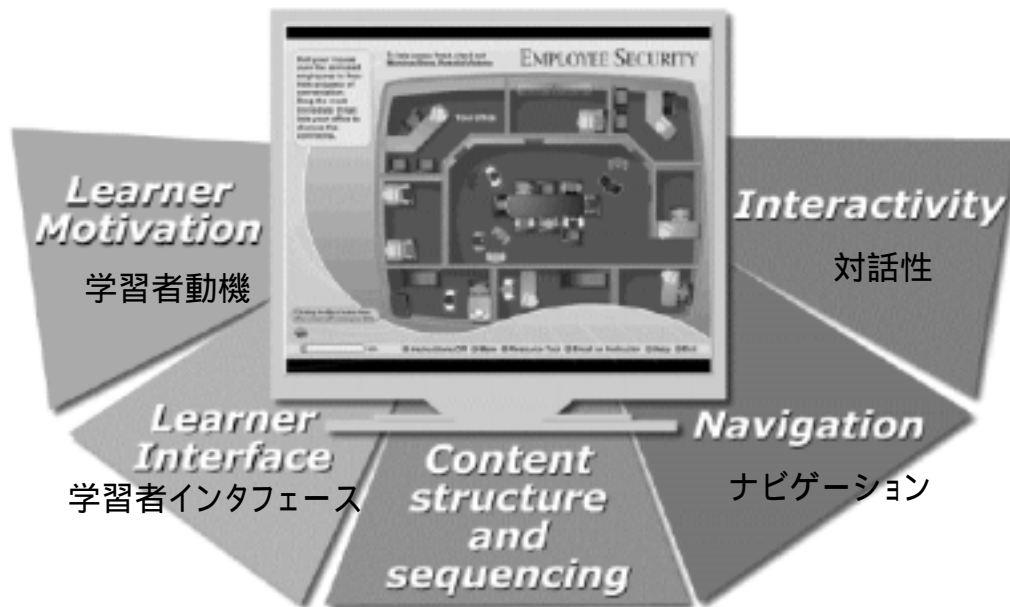
2. Focus learners on behavior-enhancing tasks

学習者の作業に対する態度に焦点を当てる

3. Create meaningful and memorable experiences

学習者にとって意義を感じ、記憶に残るような経験をさせる

B) コンテンツ作成に重要な要素



コンテンツ構造と配列

C) 学習意欲

Ways to Enhance Learning Motivation-The Magic Keys 学習意欲を高めさせる方法 魔法の鍵		
1.	予測された結果で構築する	この学習でどのような効果が期待できるのかを明示することは学習者の学習動機を維持できる
2.	危機を与える	学習者に学習しないことで失うものがどれほど大きいかを知らせることは学習者の注意を集める
3.	それぞれの学習者に対して適したコンテンツを選択する。	与えられた学習内容が意味がなかったり、既に知っていたことならば、学習は楽しいものにはならない
4.	魅力的な背景を用いる	目新しいこと、サスペンシブ、魅力的なグラフィック、ユーモア、音、音楽、アニメーションなどを用いることで新たに学習者をひきつけることが出来る
5.	多段階に分けてタスクを実行する	本当の(真の)課題を与えることは、同じことを繰り返したり、少しずつ真似ることよりも、はるかに面白い
6.	本質的なフィードバックを与える	学習成果を学習者に伝えるのに客観的な判定よりどこがどのように悪いのか、良いのかを指摘する評価のほうが効果的である
7.	学習判定を急がない	学習判定を待つ学習者に対して、急いで判定を出すのではなく、自己判定を行えるだけの時間を与える

第二日目：

ワークショップが行われた。テーマは「ブースターケーブルを使って、車庫の中で使われていない車を再利用するスキルを教えるコンテンツを考える」で、参加者 72 人が 6 チームに分かれ、案を出し合い、それぞれのチームからコンテンツストーリーが発表された。発表された内容は、講師が唱える、「たいくつな E-Learning の禁止」というコンセプトが生かされていた。受講者参加型の活発なプログラムであった。

【参加者】

参加者は何らかのコンテンツ作成の経験者であり、「インストラクショナルデザイン」に関して大いなる関心を持っている人々のため、講師との意見交換や自分の主張を訴える者など、賑やかな講習会であった。また全員参加型のゲームやクイズを取り入れたたり、ワークショップを行ったりと、とてもユニークな講義内容であった。

【受講風景】

講義中



ランチタイムに講師の Allen 氏と



2人で1台のパソコンを共有

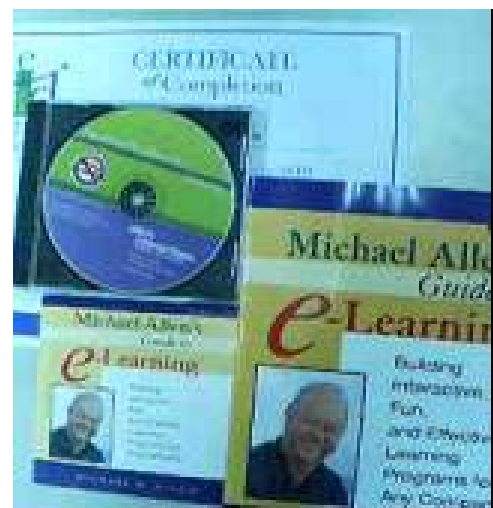
【学習内容の確認】

今回の講習会は全て英語による講義であったので、事前に ASTD 事務局より講習会テキストを入手し、翻訳したテキストを副読本として持参するなどして参加した。受講後、宿泊ホテルに戻り、当日学んだ講義内容の再確認や意見交換などを行った。日本との学習環境や文化の違いでそのまま日本でのコンテンツ作成に生かせない事項があることも認識した。

受講後、宿泊ホテルにて復習会



講習会テキスト、CD-R など



7.ASTD 事務局との打ち合わせ

今回の ASTD の「E-Learning Instructional Design Certificate」のプログラムに参加するに際して、ASTD の事務局と本プログラムの位置づけについて話し合いを持った。2002 年 JPSA 旧 CSSC 教育小委員会において、インストラクショナルデザインに関する勉強会を実施したり、コンテンツ作成の際の考慮点として検討を行った。また、経済産業省の公募案件において「インストラクショナルデザイン」が要件として記載された現状からも、この認定プログラムの目的や今後の方向性に関して事務局と打ち合わせを行った。ASTD2005 にあわせて行われた 11 の認定プログラムでは、受講すると ASTD より学習単位が発行される。2006 年には認証制度を発足する方向で活動され、詳細内容に関しては今秋に発表される予定である。

ASTD スタッフとの打ち合わせ



2005 ASTD'S Certificate Programs 学習単位

Certificate Program Title	Number Of CEUs
Designing Learning	2.0
E-Learning Instructional Design	1.4
The ASTD / HBSP Training Directors Business Boot Camp : Building the Case for Training	
Human Performance Improvement In the WorkPlace	2.0
HPI Evaluating Performance Improvement Interventions	2.0
HPI Analyzing Human Performance	2.0
Measuring & Evaluating Learning	2.0
Rapid Prototyping for E-Learning Design	1.4
ROI Skill-Building	1.4
Training Certificate Program	2.0
Coach-Based Consulting	1.0

8. ASTD '05 視察ツアー（全体）を振り返って

（参加メンバーからのコメント）

1.E-Learning Instructional Design Certificate Programs に参加していかがでしたか

初めて ASTD の講習を受講しましたが、ASTD の提唱する ID の考え方、成功させるための手順、今後の方向性などが理解でき、現在日本で行っている e-Learning 事業の中にも活かすことが出来る価値あるものでした。

ID の基本を「インストラクショナルデザイン入門」の本で学んだ後、eLC の e ラーニングファンダメンタルを受講し、今回のカンファレンスに臨みました。従って、基本 学問 異説という流れで ID に触れることができ、私にとっては、とても勉強になりました。今回の講義の内容は、e ラーニングの具体例がとても多く、どれもユニーク。しかも、そのデモ版を持ち帰ることができたというのが、最大の収穫だったと思います。

他社の ID for WBT とは、異なった内容に驚きました。基本的な ID の考え方を知った上での講習だと思います。サンプルも豊富で、講習中に利用するだけでなく、CD-ROM で配布されたので日本に帰ってからじっくりと見ることができます。参考にしてサンプルを作ってみようと思っています。

ID の講習が、今まで自分が行ってきたものについての整理と別の観点からの考え方が聞け、とてもためになった。ただし、米国と日本での考えの違いをどのようにするのか等課題は残ります。

体系的な教育プログラムとして大変興味深く感じられ、あくまでも実践的に使える理論として確立されている点でも有益なプログラムでした。個人的にはもう少しワークアウト的な内容が多いのかと（内心ひやひやしなながらも）思っていたので進め方としては少々物足りなさを感じた箇所もありました。

全体として今後も継続して受講していきたいプログラムでした。これを機に「ID」をより深く学習していきたいと感じております。

私自身(達)が日本で実践してきたことと、米国での名のある方達実践してきたことの、論理的な考え方(ID に対する)のすりあわせができたことは非常に有意義でありました。今回の参加をきっかけに今までの知識の整理・見直しして、論理的な裏づけに基づく ID の確立を目指したいと思います。

米国でのインストラクショナルデザインに関する講習会受講は、2 回目ですが、それぞれ観点や主張が異なり、とても参考になりました。特に旧来のコンテンツとの比較はかなりインパクトのある内容で、今後の日本でのコンテンツ作成には影響を与える

ことが出来ると考え、事例として紹介したいと考えています。また 70 名を超える参加者が同じようにコンテンツ作成に主張を持っているのには感心しました。日本のコンテンツ作成者がこれほど根拠のある理論的主張ができるようになれば素晴らしいと思います。



2.ASTD 2005 EXPO はいかがでしたか

e-Learning 事業者にとっては、他の COMDEX 等のイベントよりも価値あるものでありました。

アメリカ人は、ものごとを体系化するのが上手い！と実感しました。日本人の方が教育に関するレベルは上だとは思いますが、アメリカ人は、あまり考えないでさっさとカタチにしてしまって商売にするとところがスゴイと思います。日本人は石橋を叩きすぎのところがあるのかも知れません。

コンテンツ体験がたくさん出来るのかと思っていたのですが、パンフレットのみ置いている会社が多かったように思います。全て英語のみであったため詳細を聞くことは出来ませんでした。PointCast 社のデモがおもしろかったです。

米国での教育全般に対する動向や考え方、ニーズをある程度把握できたと思います。

e-Learning 業界のエキスポとしては「e-Learning World」等での経験しかなかったので、規模、内容、業界の動向、どれをとっても刺激的で大変身になるエキスポでした。

会場内で割ける時間が限られていたので、強いて言えばもう少し時間をかけて見て回れるスケジュールであつたらよかつたのではないかと感じております。

以前に見学した ASTD より会場は広く、整然と展示されていました。それぞれの企業が自社の主張を前面に出しており、ブースに立ち寄って説明を求めると自信に満ちた説明を行っており、中には見学者と相当真剣な意見交換をしていました。日本からの企業が 2 社ほど参加していました。日本企業は総合的なコンサルタントが主体でしたが、参加企業は本当に NICH な分野でのサービスを行っているのには、これでビジネスが出来るのかと思ひ、同時に感心しました。

3. ツアー全般について

フリーを 1 日とったために、最終日だけでは ASTD 2005 EXPO をゆっくりと見る事ができなかったことが残念。しかしフリーは 1 日ほしいので、もう 1 日、日程が欲しかった。

団長とメンバーに恵まれ、刺激と慰労を両方満喫できました。

快適で、充実した旅ができました。ありがとうございました。自分の英語力がもっとあれば、更によりツアーになつたらと今回も思いました。

内容が充実しているにもかかわらず価格もそれほど高額でなく、よいツアーでした。

当初 5 泊 6 日は“長いな”という印象でしたが、実際に渡航し最先端の e-Learning の雰囲気に触れるにつれ「もう少し長く視察して行きたい」という思いに変わっていました。可能であれば、あと数日は企業視察や商談の日程を取りたいと思うほど内容の濃いツアーであつたと思っております。

夜の勉強会を開催していただき、私自身の語学力不足を補っていただき、また、参加者の皆さんと議論できたことは、いろいろな人の意見・考え方を聞けたため非常に良かったです。



英語での授業参加に対して皆さん積極的で本当にびっくりしました。夜の勉強会では昼間の講習会での疑問点を次から次へと提示されるので説明するのに苦労しましたが、同時にそれらに対する参加者の意識が高いことも十分理解できたことと、今後もこのような企画で幅広い知識習得の場を設ける必要を感じました。

4. 今後視察したい地域や内容、企画してほしいこと等

ASTD の講習は引き続き受講してみたい。その他 e-Learning あるいは テスティングに関わる情報収集や収穫が期待できるイベントであれば参加してみたいと思います。



ASTD がらみのイベントがあれば、また行きたいと思います。

今回の講習の中でサンプルコンテンツをたくさん見ることができました。今までに見たものとは構成も表現の仕方も違って、その制作過程を体験（ワークショップのように形で）したいです。

同様な日本では聞くことができない ID 等の講習。また、今回はコンテンツを中心においた内容の講習だったが、運用サポートや LMS や LCMS などとの連携、実際にそれを利用している企業の講和などがある e-Learning 全体の運用、金額、その結果がわかるツアーを企画していただきたいと思います。

やはり e-Learning 最先端国家と自負しているだけありエクスポに出てくる企業は日本の数歩先を進んでいる感がありました。それらの事情を踏まえ、以下のようなツアーを企画も面白いのではないのでしょうか。

- ・ 企業訪問や企業毎の集中セミナー（サービス、商品のデモンストレーション）等を入れて、その企業内での 1 日従業員体験やセールス、開発などの個々人の職域に合わせた 1 日同行インターン体験等
- ・ ツアー参加者の参加意識を高める為にも、今回受講したような「結果の残せる」講習会への参加ツアー（ASTD の講習会は非常に関連性が高く良いプログラムだと思います）
- ・ 「米国縦断（or 横断）e-Learning 商談ツアー」と題し、自社の商材・サービスを広く世界規模で広めたいと考えている企業に参加して頂き、米国内の希望企業とのマッチングを行うツアーなど

今回のセミナーは単なる机上での理論だけでなく、実践に基づくものであることは大いに評価できます。ID にはいろいろな考えがあり、また、人によっても様々であります。今回のようなセミナーを 2~3 回（いろいろな考え方の）受講できればと思っています。

5. その他（ご自由に）

せめて英語くらい話せるようになってから行かないとダメだ、と反省しています。講座の内容やディスカッションの内容の理解度を更に高めるためにも、次回はもっと英語力をパワーアップしてから臨みます。

今回のツアーでは、いろいろありがとうございました。今回のような意義のあるツアーをもっと企画していただければと思います。

8人の少人数のためアットホーム的で楽しく参加させていただきました。
企画、運営等々に関係なされた方々へ改めまして御礼の気持ちをお伝えしたいところで
す。ありがとうございました。

アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。
貴重なご意見として、今後の視察企画の際に参考にさせていただきます。
団長はじめ、皆様のお陰により充実したツアーを実施することができました。心より感謝を
いたします！

(社)日本パーソナルコンピュータソフトウェア協会
人材育成研究会 事務局 宮下 奈緒美 [E-mail: miyashita@jpsa.or.jp]



平成 17 年度 人材育成研究会主催 ASTD2005 視察ツアー報告書

平成 17 年 6 月 発行

発行所 社団法人 日本パーソナルコンピュータソフトウェア協会
〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-4-2 秀和溜池ビル 4 階
TEL : 03-5157-0780 FAX : 03-5157-0781
URL : <http://www.jpsa.or.jp/>

©2005 Japan PersonalComputer Software Association